

1. 仮想ディスク機能について

2. 仮想ディスクの追加

1. 仮想ディスク機能について

復旧天使Standard RAIDと復旧天使Professionalには、RAID構成ディスクが欠損している場合に、自動で欠損したディスクを補う機能があります。

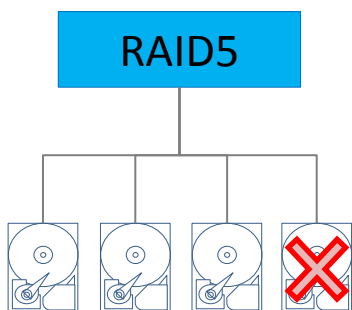
復旧対象のRAIDボリュームがRAID5の場合はディスク1台の欠損まで、RAID6であればディスク2台の欠損まで対応することができます。

RAID0の場合の欠損について

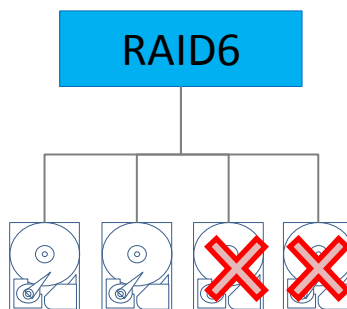
復旧対象のRAIDボリュームがRAID0の場合、ディスクが1台でも欠損するとソフトウェアで対応することができません。

RAID0でディスクが欠損してしまっている場合については、データ復旧サービスにご相談ください。

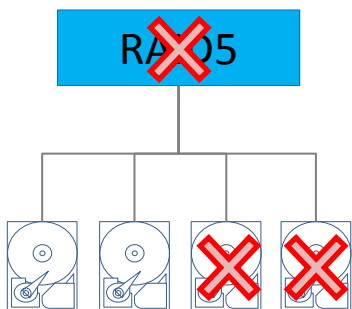
データ復旧サービスでは、ソフトウェアでは対応できない物理障害についても、専門環境で対応することができます。



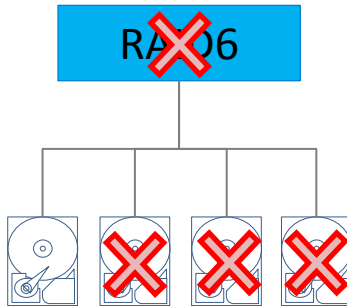
ディスク1台までの欠損であれば対応可能



ディスク2台までの欠損であれば対応可能



ディスク2台以上の欠損で対応不可



ディスク3台以上の欠損で対応不可

1. 仮想ディスク機能について

2. 仮想ディスクの追加

2. 仮想ディスクの追加

H D D 4台 RAID5で構成されているRAIDボリュームを例に、仮想ディスクがどのように追加されるかをご説明します。尚、作業用コンピュータに接続したRAID構成ディスクが正常に認識されれば、通常は復旧天使ソフトウェアを起動した段階で、自動で仮想ディスクを補ったうえでRAIDボリュームを作成します。以下は、起動時にRAIDボリュームが作成されない場合の操作となります。



HDD4台の中で、1台が物理障害で認識しない場合、復旧天使腕での作業は残りの3台のみで行います。画面ではディスク3台が正常に認識されています。



画面上にある「RAID構築」ボタンをクリックして仮想RAID構築画面を表示させます。

1. 仮想ディスク機能について

2. 仮想ディスクの追加



画面左に表示されているRAID構成ディスクの1つを選択して追加します。



RAID構成ディスクからソフトウェアがRAIDの情報を検知した場合は、「RAID/パラメータを自動でロード」するか確認するメッセージが表示されます。

RAIDの情報が検知されない場合

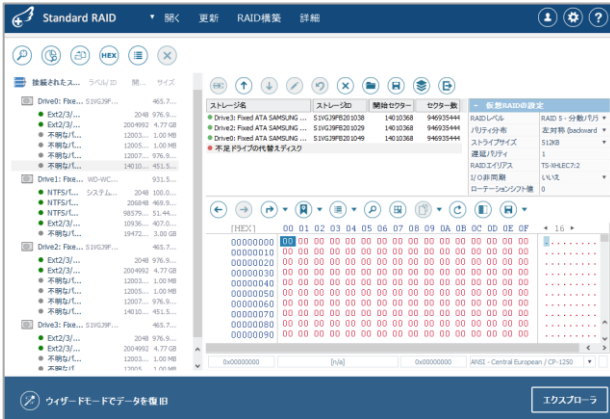
RAID構成ディスクからソフトウェアがRAIDの情報を検知できない場合は、ディスクを選択して追加すると、上記メッセージは表示されずにRAID構築画面の右側にディスクが移動します。

この場合は、残りの2台のディスクについても同じ操作を繰り返します。

詳細は、「手動による仮想RAIDの構築」を参照してください。

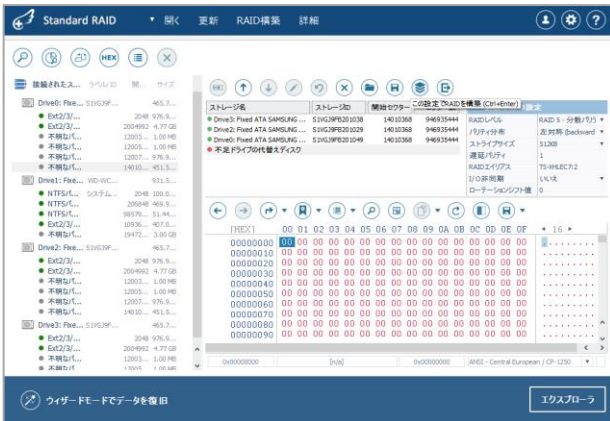
1. 仮想ディスク機能について

2. 仮想ディスクの追加



「RAIDパラメータを自動でロード」するかについて、「はい」を選択すると、検知したRAIDの情報をもとに、ソフトウェアがRAIDのディスクの順番や他のRAID構成情報を自動で入力します。

左の画面では、欠損したディスクも仮想ディスクとして自動で追加されていることが確認できます。



「この設定でRAIDを構成する」とクリックすると、仮想RAID構築画面が閉じて、起動画面の左下に作成した仮想RAIDボリュームが表示されます。



仮想RAIDボリュームが表示されていることを確認したら、RAID構築作業は完了です。